

令和 7 年度 広報委員会 活動報告

■委員名	委員長：松下清美 副委員長：三崎修子 委員：井手口翔子・稲垣智也・小川かおり・田中雄大・山口匡拓																				
■活動目標	1. 広報委員会と協会事務局に設置する「広報会議」と連携・協働し、広報戦略を練り、看護職及び県民を対象とし看護協会活動について効果的に広報を行う。 2. 会員の意見をアンケート等により把握し、会員目線で効果的に情報発信を行う。 3. 新たに就業した看護職を対象に新入会員研修を開催し、入会の機会とする。 4. 県民を対象とした健康情報を発信し、県民の健康づくりに貢献する。																				
■開催回数	7回																				
■活動事業	1. 会員向けには「協会ガイド」や「看護ひょうご」の発行、ホームページの充実やLINE等のSNSを活用して看護協会活動を情報発信し、会員サービスの一層の向上を図った。 1) 広報会議と連携し、LINEの活用やホームページの内容充実を図る。 2) 「看護ひょうご」に広報委員会企画コーナーをとり、阪神淡路大震災から30年を迎えるにあたり、改めて災害時の看護活動を取り上げ伝承するほか、多様な領域で活躍する看護職を取材し、紹介した。 春号（4月）「新人看護師座談会 1年目の成長と体験を語ろう」 夏号（7月）「震災30年の継承」 秋号（10月）「福祉施設で広がる特定行為看護師の役割と今後の展望」 新春号（1月）「精神科病院と訪問看護で取り組む患者の地域移行」 3) LINE 情報発信を充実させ迅速な情報提供に努めるとともに、登録者を拡大した。 LINE 登録者 1,303名（3月現在） 4) 会員を対象に広報に関するアンケートを実施・分析し、会員目線の広報企画に活かせるよう、提案や取り組みを検討した。（令和8年1月15日～2月末） 回答件数：367件 主な回答結果は「看護ひょうご」に掲載した。（令和8年2月実施分） 2. 新規入職者に看護職能団体としての看護協会の目的、理念、活動の理解を深めるとともに、キャリア支援、離職防止支援となるよう、新入会員研修を開催した。 会場とオンラインとの併用により昨年以上の参加者数で、グループワークで悩み等を共有できた。 <table><tr><td></td><td>5/19</td><td>5/20</td><td>5/26</td><td>合計</td></tr><tr><td>会場</td><td>219</td><td>249</td><td>170</td><td>638</td></tr><tr><td>WEB</td><td>—</td><td>—</td><td>552</td><td>552</td></tr><tr><td>計</td><td>219</td><td>249</td><td>722</td><td>1,190</td></tr></table> 講師：兵庫県立大学看護学部 教授 川田美和 氏 内容：講演及びグループワーク テーマ「看護という仕事 働くことの意味、助けを求めることの大切さ」		5/19	5/20	5/26	合計	会場	219	249	170	638	WEB	—	—	552	552	計	219	249	722	1,190
	5/19	5/20	5/26	合計																	
会場	219	249	170	638																	
WEB	—	—	552	552																	
計	219	249	722	1,190																	

■活動の評価	「看護ひょうご」の企画では、阪神淡路大震災から30年を迎える節目の年であり、当時の経験者と震災前後に生まれた災害支援ナースとの座談会を紹介した。また、前年のアンケート結果で多様な職場の活動紹介を希望する意見が複数あり、福祉施設での特定行為看護師の紹介や精神科看護をテーマに取り上げた。看護実践者が抱く対象者への思いや信念、組織の変化など、興味深い報告であった。また、新人看護職が1年を振り返り自己の成長や周囲からの支援などの寄稿により、若い会員の関心と共感を得ることができた。 新入会員研修は、オンラインと会場の併用で開催し、会場数は縮小したが参加者は前年よりも増加した。職能団体としての看護協会の役割や活動内容の理解につながり、また、講義やグループワークでは、新人としての悩みを共有できたと感じる。しかし、入会率は会場参加で67%、オンライン参加で42%であり、入会には直結していない結果であった。入会メリットと協会の役割を周知する必要がある。 SNS については、LINE の登録者が1,300人を超えたが、登録率はまだ低い。メールインフォと合わせ、協会から迅速に情報提供していきたい。
■今後の課題	「看護ひょうご」はアンケート結果では、「読みやすい」「以前より身近なテーマで興味が持てる」という意見で好評である一方、紙媒体廃止を検討してはという意見もある。LINE 登録者も40歳代以上が多く、年代層が多様な会員には多様な方法で情報を届ける必要があると考える。今後、県民の健康を支援する看護協会活動や看護職への理解を得て期待に応えられる活動が行えるよう、また、職能団体の役割が広報でき会員のメリットが実感できるよう、効果的な広報内容や手法を検討していく。